

▼エムプリシティ点滴静注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 エロツズマブ (遺伝子組換え) Elotuzumab (Genetical Recombination) 【分類】 多発性骨髄腫治療薬 [ヒト化抗 SLAMF7 モノクローナル抗体]

【単位】 ▼300mg・▼400mg/V [過充填]

【常用量】 ■1回10mg/kg, 28日間を1サイクルとし, 最初の2サイクルは1週間間隔で4回(1, 8, 15, 22日目), 3サイクル以降は2週間間隔で2回(1, 15日目)点滴静注■デキサメタゾンと併用

【用法】 ■0.5mL/minの速度で点滴静注を開始し, 忍容性を確認して段階的に投与速度を上げることが可能■infusion reactionへの対応を行う(抗ヒスタミン剤, H2受容体拮抗剤, 解熱鎮痛剤(アセトアミノフェン等)を投与する■注射用水で300mgは13mL, 400mgは17mLで溶解し25mg/mLの濃度とし, 必要量を230mLの生食または5%ブドウ糖で希釈

【透析患者への投与方法】 常用量(1)

【保存期 CKD患者への投与方法】 常用量(1) 腎機能はPKへの影響因子ではない(1)

【その他の報告】 Ccr 30mL/min未満の腎障害患者でも減量の必要なし(Berdeja J, et al: Clin Lymphoma Myeloma Leuk 16: 129-38, 2016 PMID: 26795075)

【特徴】多発性骨髄腫細胞に高発現する細胞表面糖蛋白質 SLAMF7 に結合するモノクローナル抗体で, ナチュラルキラー(NK)細胞による抗体依存性細胞傷害(ADCC)を介し骨髄腫細胞の増殖抑制作用を示す。

【主な副作用・毒性】 発熱, 悪寒, 高血圧等の infusion reaction, 感染症, リンパ球減少, 間質性肺炎, 疲労, 浮腫, 胸痛, 消化器症状, 血球減少, 白内障, 筋痙攣など多数

【安全性に関する情報】

【代謝】 イムノグロブリンの代謝経路をたどると推測(1)

【排泄】 分解されて排泄(1)

【CL】 0.215mL/hr/kg (1) 体重増加により CLは上昇, 血清M蛋白増加により CLは上昇, レナリドミド/デキサメタゾン使用例ではCLが低下(Gibiansky L, et al: J Pharmacokinet Pharmacodyn 43: 243-57, 2016 PMID: 26993283)

【t1/2】 単回147hr, 定常状態33.5日(1)

【蛋白結合率】 該当しない(1)

【Vd】 血管内に分布し0.06L/kg(1)

【MW】 約14.8万

【透析性】 除去されない(1)

【薬物動態】 PKに有意に影響する因子は体重, 併用薬, M蛋白(1) M蛋白高値群でAUCが軽度(1)

【O/W係数】 該当しない(1)

【主な臨床報告】

【更新日】 20211213

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。